

果たして、後期高齢者の方が医療費が高いのか？



## 分析モデル

$$\text{Ln医療費} = a \times \text{非後期高齢者ダミー} + b \times \text{生存ダミー} + c \times \text{非後期高齢者ダミー} \times \text{生存ダミー} + d \times \text{性別ダミー} + \text{定数項}$$

医療費：DPC医療費、出来高換算医療費

1日あたりDPC医療費、1日あたり出来高換算医療費

非後期高齢者ダミー：後期高齢者(75歳以上)を0、非後期高齢者(75歳未満)を1

生存ダミー：死亡退院を0、生存退院を1

性別ダミー：男を0、女を1

脳梗塞の死亡症例については、後期高齢者の方が高いが、肺の悪性腫瘍、急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の死亡症例は、後期高齢者の方が一入院あたり医療費が低い。

一方、後期高齢者については、肺の悪性腫瘍、脳梗塞の死亡症例のほうが医療費が高いが、急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞では死亡の方が低い。



# 肺の悪性腫瘍

## 2007年度退院17,877症例

### DPC医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.388	.039		344.341	.000
非後期高齢者ダミー	.174	.051	.074	3.405	.001
生存ダミー	-.329	.042	-.092	-7.869	.000
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-.158	.054	-.070	-2.900	.004
性別ダミー	3.732E-02	.017	.016	2.170	.030

a. 従属変数: LnDPC医療費

b. MDC6名 = 肺の悪性腫瘍

### 出来高換算医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.413	.036		368.472	.000
非後期高齢者ダミー	.169	.048	.076	3.535	.000
生存ダミー	-.367	.039	-.109	-9.362	.000
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-.151	.051	-.072	-2.958	.003
性別ダミー	1.099E-02	.016	.005	.682	.495

a. 従属変数: Ln出来高医療費

b. MDC6名 = 肺の悪性腫瘍



# 脳梗塞

2007年度退院15,845症例

## DPC医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.558	.042		326.665	.000
非後期高齢者ダミー	-.145	.073	-.081	-1.984	.047
生存ダミー	-.105	.042	-.024	-2.501	.012
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-5.214E-02	.075	-.029	-.700	.484
性別ダミー	-3.733E-02	.015	-.020	-2.530	.011

a. 従属変数: LnDPC医療費

b. MDC6名 = 脳梗塞

## 出来高換算医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.606	.040		338.019	.000
非後期高齢者ダミー	-7.481E-02	.071	-.043	-1.054	.292
生存ダミー	-.196	.041	-.046	-4.810	.000
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-9.573E-02	.072	-.055	-1.325	.185
性別ダミー	-5.814E-02	.014	-.033	-4.063	.000

a. 従属変数: Ln出来高医療費

b. MDC6名 = 脳梗塞



# 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞

2007年度退院4,008症例

## DPC医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.775	.063		217.127	.000
非後期高齢者ダミー	.672	.101	.405	6.625	.000
生存ダミー	.556	.065	.173	8.532	.000
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-.659	.104	-.404	-6.306	.000
性別ダミー	-.104	.028	-.060	-3.659	.000

a. 従属変数: LnDPC医療費

b. MDC6名 = 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞

## 出来高換算医療費

係数<sup>a,b</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	13.877	.065		214.356	.000
非後期高齢者ダミー	.696	.103	.413	6.724	.000
生存ダミー	.436	.066	.133	6.559	.000
非後期高齢者ダミー × 生存ダミー	-.675	.107	-.406	-6.330	.000
性別ダミー	-.118	.029	-.066	-4.051	.000

a. 従属変数: Ln出来高医療費

b. MDC6名 = 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞



## 富山県の救急医療

			富山県	(順位)	全国平均
急病救急搬送人員数	人口10万人あたりの急病救急搬送人員数(人)	②他より算出	1,684.4	6 番目に少ない	2,293.6
救急隊・救急隊員・ 救急救命士数等	救命士常時運用隊比率(%)	②	73.6	19 番目に多い	75.0
	人口10万人あたりの救急隊員数(人)	②他より算出	55.7	26 番目に多い	46.3
	人口10万人あたりの運用救命士数(人)	②他より算出	18.2	7 番目に多い	13.5
	救急隊員一人あたりの急病救急搬送人員数(人)	②より算出	30.3	21 番目に少ない	49.5
	運用救命士一人あたりの急病救急搬送数(人)	②より算出	92.6	3 番目に少ない	170.2
覚知～現場到着所要時 間別出場件数の状況	5分未満の件数の割合(%)	②より算出	38.4	7 番目に多い	29.4
	10分以上の件数の割合(%)	②より算出	8.4	4 番目に少ない	13.5
	覚知～現場到着所要時間平均(分)	②	5.9	5 番目に早い	6.6
覚知～医療機関等収容 所要時間	覚知～医療機関等収容所要時間平均(分)	②	25.7	5 番目に早い	32.0
管外搬送人員の状況	管外搬送人員の割合(%)	②	15.4	23 番目に多い	16.2
重症者以上の傷病者 搬送の状況	重症以上の搬送人員/総救急搬送人員(%)	③	13.1	26 番目に多い	10.8
	1回目で搬送先が決まる割合(%)	③より算出	93.2	16 番目に多い	84.0
	3回目までに搬送先が決まる割合(%)	③より算出	99.8	5 番目に多い	96.1
	6回以上かかる割合(%)	③より算出	0.0		1.5
	「未集計?」件数割合(%)	③より算出	21.8	8 番目に多い	10.5

出所:②総務省:平成19年版 救命・救急の現況

③総務省:救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査の結果について(2008.3.11)